

【今日の説教から】

先週私たちは、「恵まれた人、おめでとう、主があなたと共におられます」との言葉を聞き、「恐れるな、あなたは神から恵みをいただいている」との励ましの言葉を受けました。

「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。」「神には、なんでもできないことはありません。」と聞かされて、「どうしてそんなことがあり得ましょう」との、神様の御心の決して私たちの考えの及ばない所にあったとしても、意を決して、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」と応答する者の幸いを味わいました。

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」そうです。私たちの人生に神様が共におられ、力強いお方が私たちに大きな事をして下さる、人知を超えた偉大なことを成して下さるということは、なんと幸いなことでしょう。主は、あわれみをお忘れにならず、その僕を助けて下さいます。敵の手、憎む者の手、暗黒と死の陰、罪と死から私たちを助け出す神様の深い深い憐れみ、神様の顧みと贖いによって朝のあけぼのの光が立ち昇るのです。

神様はその深い深いお心の奥底から憐れみの愛に満ち、私たちの人生を天からの光で満たして下さいます。私たちはきよく正しく恐れなく主に仕えることが出来るのです。

皆様おはようございます。

先週私たちは、「恵まれた人、おめでとう、主があなたと共におられます」との言葉を聞き、「恐れるな、あなたは神から恵みをいただいている」との励ましの言葉を受けました。

「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。」「神には、なんでもできないことはありません。」と聞かされて、「どうしてそんなことがあり得ましょう」との、神様の御心の決して私たちの考えの及ばない所にあったとしても、意を決して、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」と応答する者の幸いを味わいました。

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」そうです。私たちの人生に神様が共におられ、力強いお方が私たちに大きな事をして下さる、人知を超えた偉大なことを成して下さるということは、なんと幸いなことでしょう。

ザカリヤもまた、この一部始終を見ていました。

思いもよらないことが確かに起こるということを彼はまざまざと示されました。

クリスマスのストーリー、それは私たちが考えもつかないことが起こるということ、「どうして、そんな事があり得ましょうか」ということが起こるということ、「どうしてそんな事が、わたしにわかるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」ということ

が起こるということです。それも憐れみ深い出来事が起こるということ、「力あるかたが、わたしに大きな事をして下さった」という出来事が起こるということです。

ザカリヤもまた、妻エリサベツと共にこの深い憐れみによる主のみ業を拝しました。そして共に主の御名をあがめました。

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」信じられないようなことでも、主がお語りになられることならば必ず実現する。私たちにとって大切なのは、信じて待つということ。

ザカリヤとエリサベツはわが子の誕生を待ちました。

そしてその誕生の日は来ました。

1:57 さてエリサベツは月が満ちて、男の子を産んだ。

58 近所の人々や親族は、主が大きなあわれみを彼女におかけになったことを聞いて、共にもに喜んだ。

今日の個所にも度々登場する言葉が、この「あわれみ」です。先週の個所にもたびたび登場しました。

1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をして下さったからです。そのみ名はきよく、

1:50 そのあわれみは、代々限りなく 主をかしこみ恐れる者に及びます。

1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、

1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

神様はどのようなお方かという問いに対して、適切な答えは、愛のお方、憐れみ深いお方ということになるでしょう。

神様は与えずにはおられないお方、心配せずにはおられないお方、私たちがいつも心配してご覧になっていて下さり、必要な時には私たちが訪れて、顧みて助けて下さるお方です。

1:68 (新共同訳)「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主はその民を訪れて解放し、

59 八日目になったので、幼な子に割礼をするために人々がきて、父の名にちなんでザカリヤという名にしようとした。

60 ところが、母親は、「いいえ、ヨハネという名にしなくてははいけません」と言った。

61 人々は、「あなたの親族の中には、そういう名のついた者は、ひとりもいません」と彼女に言った。

62 そして父親に、どんな名にしたいのですかと、合図で尋ねた。

63 ザカリヤは書板を持ってこさせて、それに「その名はヨハネ」と書いたので、みんなの者は不思議に思った。

どんなに親戚筋ではそのような名前がなかったとしても、前例に反しても、伝統に抗ったとしても、神様の仰せになられることには従いたい。今度こそ従いたい。そのような強い思いがザカリヤにはありました。

私たちも、教会も、常に語りかけられる神様のお言葉に対して、その仰せにはどんなに新奇なものを感じたとしても、荒唐無稽に感じたとしても、信じがたいものであったとしても、それが神様のお言葉とあれば、素直に信じたいと願います。それは私たちが損なう言葉ではありません。人の言葉、対面を繕う言葉、目に見える組織を維持しようとする言葉は人を損ないませんが、神とその国を第一とする言葉に従う時には神様のお守りと導きがあります。

1:64 すると、立ちどころにザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえた。

1:65 近所の人々はみな恐れをいだき、またユダヤの山里の至るところに、これらの事がとごとく語り伝えられたので、

1:66 聞く者たちは皆それを心に留めて、「この子は、いったい、どんな者になるだろう」と語り合った。主のみ手が彼と共にあった。

やはり彼の口がものを言えなくなっていたのは神様の御業によるものでした。人はついつい思い余って色々口にするべきでないことを口にしがちです。不安を多く口にしたところで人は自分の身を救うことは出来ません。しかし私たちは神様を仰ぎ見ることが出来ます。神様は私たちが不安をこぼす口を感謝をもって神様をほめたたえる口へと変えて下さいます。

それは私たちが不平を口にしてはならないということではありません。私たちはそんなとき、じっと押し黙って、時が至ればなる神様の御業を祈り待ちましょう。それが私たちの近道なのです。その悩みの言葉を祈りの言葉に変え、神様の御前に飲み祈りの言葉を捧げる時、私たちの口は開けて賛美の口、神様をほめたたえる口が開くことでしょう。

その生まれた子には神様の御手が共にあり、その足には神様のお守りがあります。

1:67 父ザカリヤは聖霊に満たされ、預言して言った、

1:68 「主なるイスラエルの神は、ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、

1:69 わたしたちのために救の角を／僕ダビデの家にお立てになった。

1:68(新改訳) 「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主はその民を訪れて解放し、

神様は顧み、訪れて下さるお方です。心配して、いつも慮って下さるお方です。神様はご自身の民のために贖いをして下さいました。

これは、この後に誕生するイエス様の事です。神様が、あえてそのひとり子を犠牲にして私たちに賜うほどに私たちを顧み、私たちに訪れて下さったのです。

「救いの角」。 角は力を現します。ですからここでは、救いの力をお立てになった、力ある救い主をダビデの家にお立てになったとも理解できます。まさしくダビデの家系の中にお生まれになったイエス様を指します。

1:70 古くから、聖なる預言者たちの口によってお語りになったように、

1:71 わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すためである。

敵から、すべて私たちを憎む者の手から。

実に不吉な陰鬱な言葉です。私たちには人類の敵があります。私たちを憎んで滅びを願っているものがあります。それは悪魔です。その悪魔が、手を伸ばして私たちをつかもうとします。その手から神様は主の贖いを通して救い出してくださるのです。

ローマ 6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

1:72 こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけ、その聖なる契約、

1:73 すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、

1:74 わたしたちを敵の手から救い出し、

1:75 生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださるのである。

1:76 幼な子よ、あなたは、いと高き者の預言者と呼ばれるであろう。主のみまえに先立って行き、その道を備え、

1:77 罪のゆるしによる救を／その民に知らせるのであるから。

そうです。ここにあるのが憐れみです。

罪のある所には刑罰があり、死があります。ここには恐れがあります。神様に敵対する歩みがあります。暗闇があり、死があります。

しかしここには憐れみと赦しがあります。贖いがあり、光があります。

1:78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

179 暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。

この「みこころ」という言葉は、その深い深い心の中心にある愛の心を指します。その深い憐れみのお心が私たちを訪れ、そのお心が私たちを顧み、慮り、天からあけぼのの光が上り、暗黒と死の陰とに、罪と死とに至らんとして住む者を照すのです。

贖い主イエス様のお誕生に、心から感謝いたします。私たちもこの憐れみを胸に、この神様の到来と訪れに感謝し、私たちを憎む敵の手にも恐れずに、赦しのただ中を、深い深い憐れみの愛の心にただすがって進ませていただきたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。あなたは、お心の

底深く深くから愛に満ち、私たちの人生の暗闇に、死の陰に、罪と死に

対して贖いの曙の光を昇らせてくださり、誠にありがとうございます。

我らを憎む者の手が私たちに延ばされようとも、そこには贖いがあり、

私たちは主の御前にきよく正しく恐れなく仕えることができますから

ありがとうございます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。

主イエス様の御名によって祈ります。アーメン